

自主調査

物価上昇を考える

自主調査

ガストロノミーツーリズムの観点で考える
地域観光の現状と課題《前編》
～「日本のサン・セバスチャン」を目指すまちづくり～

企業紹介

株式会社 ^{エンゲームズ} Engames

北陸歴史探訪

第20回 ^{かほくぐん} 河北郡一向一揆と^{きごし} 加賀木越の合戦

【加賀獅子頭】（置き型）

両目が左右に広がった「八方睨み」と角を特徴とし、
飾る際には刀を咥えさせる習わしがある。



獅子頭づくりで支える地域のつながり

か が し が し ら 加賀獅子頭 (石川県指定稀少伝統的工芸品) × ち だ こう ぼう 知田工房 [石川県白山市]

1583年(天正11年)に前田利家公が金沢城へ入城した際、盛大に披露された祝いの獅子舞が起源とされる加賀獅子頭。その後、獅子舞は隠れた武芸奨励策として普及し、現在も石川県内の多くの町会で祭礼の際に披露されています。県内唯一の専門工房である知田工房では、霊峰白山の麓で育った桐材を用い、一木彫りで一体ずつ丁寧に制作しています。獅子頭は各町の誇りであるとともに、地域を守る守護神として大切に受け継がれてきました。二代目・知田清雲さんは、獅子舞に情熱を注ぐ「祭り男」たちの存在が、地域の結束を支えてきたと語ります。人と人とのつながりが希薄になりつつある現代だからこそ、獅子頭を通じて地域の絆が深まることに意義を感じ、日々制作に励んでいます。制作の担い手が減少する中、その伝統を次世代へつなぐため、清雲さんは現在、木彫刻の修行を終えて帰郷した息子の^{たいが}大芽さんに技術を伝えています。



二代目・清雲さん(手前)と、「いつか自分もやるものだと思っていた」と語る大芽さん(奥)。

二代目 知田 清雲
石川県白山市八幡町98
TEL : 076-272-1696
Mail : kagasisi@taupe.plala.or.jp



●加賀獅子頭

他地域では珍しい白木仕上げの作例。一木彫りのため、良質な桐材と高度な彫刻技術を要する。



●獅子頭箸置き

伝統技術を生かし、日常使いのできる小物も制作している。



全国各地から寄せられる難度の高い修理依頼に応える。

知田工房

創 業 1950 (昭和25) 年頃
主な事業 獅子頭の制作・修理
概 要 筆筈職人だった初代・知田清雲さんが創業。これまでに全国の神社や祭礼で用いられる獅子頭を500体以上制作・修理してきた。駅や空港、ホテルなどに展示される作品の制作も手がける。近年はミニチュア獅子頭の絵付け体験も開催し、多くの参加者から好評を得ている。

Instagramは
こちらから



YouTubeは
こちらから

